

～ 公開シンポジウム ～

# 「がん教育」について考える

**2人に1人が「がん」になる時代。** そんな世の中だからこそ、「がん」を通して命の大切さを伝える「がん教育」が学校教育に導入されます（平成29年度より）。本シンポジウムでは、「がん」を専門とする医師から正しい知識を学び、「がん」に向き合い、地域と医療現場が連携した「がん教育」を考えます。

**総合司会：内藤 裕子** (NHKアナウンサー)

**挨拶**

**南 新平**

文京区教育委員会教育長

## 基調講演.1

**鳶巣 賢一**

がん・感染症センター 都立駒込病院 院長  
京都大学医学部卒業。京都大学、国立がんセンター、静岡がんセンター、聖路加国際病院などを経て、現職。医学博士。  
専門は泌尿器科がんの手術・化学療法、がんに関連した集学的治療、再建手術。



## 基調講演.2

**本田 麻由美**

読売新聞東京本社編集局社会保障部 次長  
お茶の水女子大卒業後、読売新聞社入社。  
2002年5月、自身の乳がんが見つかる。約10年間の治療を続けながらも、闘病体験に基づく医療コラムを連載。著書「34歳でがんはないよね？」がある。



**「がん教育について考える**

～それぞれの立場の人に求められるもの～

**「がん教育への期待と課題」**

## パネルディスカッション

**地域と共に行う「がん教育」**

**総括**

**樋野 興夫**



順天堂大学医学部病理・腫瘍学 教授  
一般社団法人「がん哲学外来」理事長

1954年年島根県生まれ。

米国アインシュタイン医科大学肝臓センター、米国フォックスチェース癌センター、癌研究会癌研究所実験病理理部部長等を経て、現職。医学博士。

2008年「がん哲学外来」を開設。第68回「保健文化賞」受賞。

**2016年12月14日(水) 18:00-20:00**

**文京シビックホール小ホール**

**主催：文京区教育委員会**

<企画・共催>

順天堂大学大学院先導的がん医療開発研究センター  
平成 28 年度科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究